

# 101歳で人工血管埋め込み



娘や施設の職員と談笑する中西さん(中央)

## 川崎医科大 大動脈瘤治療、元気に

101歳で腹部大動脈瘤を治療するため、川崎医科大付属病院(倉敷市松島)で体内に人工血管を埋め込む手術を受けた女性が、術後1年を経て元気に過ごしている。脚の付け根からカテーテルを挿入する「ステントグラフト内挿術」と呼ばれる手術で、開腹の必要がなく、患者の体への負担が少ないのが特徴。同病

同月下旬に入院。心臓血管外科の柚木靖弘医長が、カテーテルを使い、こぶのように膨らんだ血管にばね状の人工血管(ステントグラフト)を埋め込む血管内治療をした。柚木医長によると、加齢などに伴う血管の蛇行が目立ったが、約3時間で終えた。

同手術は2006年、厚生労働省から認可された。柚木医長は「医療技術の発達や元気なお年寄りの増加で、80歳以上の治療も珍しくない。患者を単純に年齢で区切ることはなく、痛みなど症状の有無、本

人の意思、全身の状態を見たという中西さんは「手術の翌日はしんどかったけど、すぐ食事もできた」と振り返る。退院後、ひだまり苑に戻り、歌や体操などのレクリエーションを楽しんでいる。自室の窓からは桜が見え「きれいなんじゃ」と笑顔を見せる。

大きな手術は初めてだったという中西さんは「手術を受けたのは中西たけしさん(102)。高梁市の翌日はしんどかったけど、すぐ食事もできた」と振り返る。退院後、ひだまり苑に戻り、歌や体操などのレクリエーションを楽しんでいる。自室の窓からは桜が見え「きれいなんじゃ」と笑顔を見せる。

院によると、同手術は高術を決めた。

(伊丹友香)